

**医療情報システム学科 3年 野口 凱登**

私達は「Fickle」という画像投稿とモザイクアートを掛け合わせたiPhoneアプリを制作しました。複数ユーザが投稿した1,600枚の画像で1つのモザイクアートを作りあげるといふ、新しい形のSNSを目指しました。

技術的なこともそうですが、一番苦労したのはスケジュール管理です。今までは授業という、スケジュールの決められている中で作業をこなしていました。しかし卒業研究では、半年という長い期間を自分で管理し作品を完成させなければなりません。最初はスケジュール通りに進まず焦ることもありましたが、仲間と進捗状況などを確認し合う事で期限までに完成することができました。

これから社会人になる上で、納期は絶対守らなければなりません。この経験を生かしスケジュール管理を怠らず、より良いシステムを世の中に広めていきたいです。

**ICT情報システム学科 2年 池谷 研人**

スマートフォンの傾きセンサーを利用したゲームを製作しました。簡単にプレイできるように携帯端末を傾げるだけでキャラクターを操作できるようにしました。

私が卒業研究を終えてまず感じた事は、進捗管理の大変さでした。大人数での開発では、チームの一人に作業が集中し、メンバーの中で暇な人が出来ないように作業を割り振るよう徹底して心掛けました。そのおかげで、進捗状況に大きな乱れが無く、発表会でも企業様からお褒めの言葉を頂く事が出来ました。

そして「一般公開をすればお金になる」「プログラムのソースコードを是非一度拝見したい」等の言葉も頂き、プログラマーとしましては最高の褒め言葉でした。

今回の卒業研究発表会では、企業様がお忙しい中わざわざ学校まで足を運んでいただき、社会人を控える我々学生達にとって、とても良い経験となりました。

**ICT情報デザイン学科 2年 三田村 尚哉**

今回のゼミナールは産学連携プロジェクトとして、FM 島田様から3つの課題を頂き、それを3つのグループに分けて進めていきました。学内で完結する授業と異なるところは、お客様に納得していただけるような作品を制作しなければならないということです。そのため週一で作業進行度やラブなどをお客様に提出し、お返事を頂き、より良いものを作るということ念頭において作業を進めました。スケジュール管理が思ったように上手くいかず苦戦しましたが、コミュニケーションを綿密に取るようにして、作業遅れがあった場合や不具合が起こっている時の対処を早く行うようにして改善するようにしました。

今回のゼミナールを通しての経験は、将来、大人数のグループで作業する場合や、クライアントからの依頼をこなす際に役立つと考えています。

**<福祉医療 卒業研究・ケアスタディー発表会>****○発表会御参加講師（順不同）**

- ・非常勤講師 大橋 孝雄 先生
- ・特養 羽衣の園  
川福 晃司 様 (施設長)  
伊藤 直子 様 (ケアマネージャー)
- ・野宿者のための静岡パトロール  
金子 勉 様 (ボランティアスタッフ)  
望月 武 様 (ボランティアスタッフ)
- ・千勝の森健康いきいき教室・民生委員  
水野 充 様 (八幡二丁目町内会長)

**○ご出席頂いた講師の方々からのコメント【一部抜粋】**

- ・後輩が継続して参加してくれており、職員と一緒にしながら企画内容に創意工夫を凝らしてくれている。毎年新たな提案をしてくれるので、施設の利用者も地域の方々も楽しみにしている。
- ・今年も沢山の若い学生さんがボランティアとして参加してくれたので、会場の雰囲気是和らいた。この取り組みには既になくってはならない存在です。
- ・日頃接する機会の少ない方々には実際触れ合ってみないとわからないことも多い。今後も是非一緒にホームレス支援に取り組んでもらいたい。
- ・改めて専門学校での勉強は学内だけではないということを痛感した。これらの実習や地域での活動などをとおして学生が成長していることも強く感じた。
- ・少年院の青年たちと触れ合う更生保護の活動など、新たな活動も含まれており、年々発展していることが素晴らしいと思う。
- ・司会進行を担当した学生も大分経験を積んできているようで、スムーズだった。

**○発表テーマと学生メンバー**

- (1)「応急手当・救護法 ～いざというときの対処法～」  
池田 直美、上坂 ゆい、海野 夏奈、田中 理央奈、高橋 優菜、三浦 真利菜 (医療情報秘書科2年)
- (2)「柔軟な思考で考える ～可能性を広げるアプローチ～」  
小野田 千紘、日下部 水紀 (介護福祉学科2年)
- (3)「目に見えない障害 ～高次脳機能障害のOさんと関わって～」  
原 直希、原田 晃佑 (総合福祉学科2年)

- (4)『絵本の持つ特性とそれに応じた選び方』  
～読み聞かせボランティア「おはなしくじら」に参加して～  
小笠原 航夢、木村 翔太、榎原 孝典 (子ども心理学科3年)
- (5)障がいをもつ子ども達と過ごす中で  
～ボランティア養成講座を通して～  
井出 有紗、岩堀 智子、梅原 美歩、林 佳奈美  
(総合福祉学科3年)
- (6)『Restart』 ～明るい未来をめざして～  
竹澤 俊輔、佐藤 文香、繁竹 駿佑 (総合福祉学科3年)
- (7)『コミュニティサロン 学老所』  
～地域とのかかわりから学んだつながりの大切さ～  
滝浪 貴弘、望月 雅貴、飯田 涼、小山 悠介、  
上嶋 翔太 (総合福祉学科3年)
- (8)『千勝の活動を通して』 ～地域で作るつながりと居場所～  
後藤 柚季、長尾 麻実、野口 絵里、鈴木 明日香、増井 友美、  
渡邊 紗季、渡邊 実里 (総合福祉学科3年)
- (9)『ホームレス支援』  
～野宿者のための静岡パトロールと野宿者の「であい」を通して～  
寺島 圭亮、船越 建太、増井 友美、渡邊 訓孝、渡邊 紗季、  
渡邊 実里 (総合福祉学科3年)
- (10)『ぼくち』 ～余暇時間充実のためには～  
後藤 柚季、佐野 柚季、鈴木 明日香、長尾 麻実、野口 枝里、  
林 佳奈美、堀井 美希 (総合福祉学科3年)

**総合福祉学科 3年 繁竹 駿佑**

3年総合福祉学科は約1年間のゼミナール活動を実施しました。その集大成として卒業研究・ケアスタディー発表会にて、行った活動の内容や活動を通して学んだことを発表しました。

私たちグループは、今年から新規の活動として「更生保護」をテーマとした活動を行いました。実際に更生保護活動を行っている更生保護女性会・BBS会の方々から話を聴き、そこから自分たちができる更生保護活動とはなにかを知りました。こうした活動を通して私たちは犯罪を犯した人の更生を支えていく仕組みや、非行少年の少年院での生活を知ることができました。

この活動で得た経験や知識を活かし、卒業後も自身の糧として行きます。最後になりましたが、各団体のみな様をはじめご指導・協力して下さった先生方、本当にありがとうございました。

## 介護福祉学科 2年 青木 千紘

私たちは、介護福祉士という職業を目指し、基本的な知識から、実習等ではより応用的な知識・技術の学びを積み重ねてきました。ケアスタディー発表会は、この二年間の学びの集大成でもありました。準備を進めるに当たり、慣れないことも多く、先生方から助言を頂きながら学生同士で協力し合い、発表に至りました。これまでに身につけた知識や、実習を振り返ることができ、更に今後、「どんな介護福祉士を目指すのか」「どんな介護がしたいのか」を明確にすることができました。ケアスタディーを通し、各々が自分を見つめ直す良い機会になったのではないかと思います。更に将来、今を振り返ったとき、新たな発見や更なる学びになればと思います。

最後に、様々な場面で支えて下さった、理事長・校長先生をはじめ諸先生方や施設の職員の皆様・利用者様に深く感謝申し上げます。

## 子ども心理学科 3年 榊原 孝典

私達は今回の卒業研究のテーマとして「絵本」を選びました。これは、保育の現場でも使われる教材だからです。私達は卒業研究とは、学内だけで終わらせるものではなく、卒業後に繋がる学習にしたいという考えがありました。制作にあたり、地域の活動に目を向けることで新たな発見もありました。私達の住んでいる地域では実に様々な活動が行われています。これまでは知ることができなかった地域社会の保育・福祉活動を知ることができました。また、科内発表会の講評でもありましたが、私達の卒業研究を後輩たちにも引き継いでいってもらいたいと思います。今年の発表を聞いた後輩達なら同じテーマでも、より内容を深めた完成度の高いものになると期待しています。

## 医療情報秘書科 2年 高橋 優菜

家庭・職場などでも救急処置が必要な場面に遭遇することが考えられます。しかし、私たちの行ったアンケート結果では、救急法についての知識や体験がある人は少数でした。そこで私たちは卒業研究として、さまざまな救急法について学び、まとめることにしました。傷病別の救急法について情報収集を進め、さらに、石田消防署での受講で、やけどの処置、骨折固定処置なども実体験しました。

自ら救急法を行うのはとても勇気がいることですが少しでも多くの人の命が助かるように、一人でも多くの方が救急法について理解し行動してほしいと思います。

卒業後、この研究を生かしていざという時に対応できるような医療スタッフを目指していきます。

## ◆文化祭・学園祭を終えて

### 学生会会長 介護福祉学科 2年 大塚 奈菜

学校でも1番の大きな行事である我道祭。会長としてもクラスの一員としても最後の行事でした。去年は、学生会役員ではなかった為、なにもわからず1からのスタートでした。『我道祭』の意味に、問題に直面したときでも、決して逃げて回り道をせず、難問を乗り越えて我が道をつくれるような人間になってほしいという言葉があるように今回たくさんの方に直面しました。そんなとき、先生方、学生会、学生全員に手伝って頂き準備から、当日、片付けまで協力して乗り越え、無事終わる事ができ、本当に感謝しています。

今回我道祭が、『良かった』と思って頂ければ幸いです。みなさん協力してくださりありがとうございました。



## ◆平成26年度我道祭

### 『医師都市伝説～これって本当?!～』

#### 学生会担当 原 佐音美

今年度の記念講演会は、特定医療法人沖繩徳洲会 静岡徳洲会病院 総合内科鈴木尚亨医師にご講演いただきました。

鈴木医師は、静岡市ご出身であり、地域の皆様の健康と安心で安全な生活を守るため、地域医療に貢献しておられます。

今回の講演会を依頼するにあたり、聞きに来られる方々が参加でき、興味を持つような講演会にしたいとお願いしたところ、「医療都市伝説をやろう!」とその場ですぐ決めてくださいました。講演会では「食べ物が落ちた時の3秒ルール」×落ちた瞬間に菌は移る!「風邪をひいたら首にネギを巻くと良い」×加熱したネギは殺菌や消炎の効果があるものの、首に巻くことでその効果を期待するのは難しい!「笑うと免疫力が上がる」○笑うことでストレスホルモンが低下される!など全部で32項目の都市伝説について解説してくださいました。今まで聞いたことはあるけど本当かな?などと思っていたことが解明でき、また実際に医療現場でのエピソード等ふまえ講演してください、皆さんが興味を持ち途中笑い声も出て楽しい有意義な講演会になったと思います。

今回の出会いを大切に、鈴木医師にはまた新たな都市伝説を教えていただきたいと思っています。

